

令和3年度 市民による市政評価 調査結果について（概要版）

企画部総合政策課

1 市政評価について

大仙市では、市民の皆さんの評価や意見を伺い、今後の市政運営や市民との協働のまちづくりを進めるため、「市民による市政評価」を平成18年度から継続的に実施してきました。

平成28年度からは、個別事業に関する評価や意見を調査する「市民による個別事業評価」を加え、市民目線に立った効率的で効果的な事業実施に努めてきたところです。

個別事業評価については、広く市民の皆さんを対象とする調査と、実際に制度を利用されている皆さんなど、生の声を伺うため特定の層を対象とする調査に区分し、前者を市政評価に組み込み実施しました。

2 調査の種別

（1）市政評価

第2次大仙市総合計画基本構想に示している体系（「施策の柱」「施策の大綱」）に基づき設定した設問項目（施策）について、「満足度」と「重要度」、「今後さらに推進すべき取り組み」を調査した。また、「あなたが思う大仙市について」として、平成28年度から継続して実施してきた「住みやすさ」等の意識調査も行った。

（2）個別事業評価

施策に基づき実施されている事業の認知度、利用度、意識等の把握や個別具体の施策を推進するための市民ニーズや意識を把握するため、次の5テーマについて調査した。

分類A：市民全体を対象とする調査
1) 健幸まちづくりプロジェクトについて
2) 市の文化財について
3) 市民のデジタル活用について
4) 家庭での災害への備えについて
分類B：制度の利用者など特定の層を対象とする調査
5) 若い世代のチャレンジについて

3 実施方法

(1) 手法

令和3年度は、行政のデジタル化の一環として、個別事業評価（分類B）において、これまでの紙ベースによる調査とあわせてインターネットによる調査も実施した。

○市政評価・個別事業評価（分類A）： 郵送方式（無記名形式）

○個別事業評価（分類B）： 郵送方式及びインターネット方式（無記名形式）

※回答方法を次の①または②とし、対象者をそれぞれ半数ずつに分け調査を実施した。

①郵送またはインターネットのどちらかによる回答

②インターネットでの回答

(2) 期間

令和3年4月27日～5月24日（28日間）

4 調査対象

(1) 市政評価

市内在住で18歳以上85歳未満の方の中から無作為（性別、年齢、地域については考慮）に抽出した市民1,000人。

(2) 個別事業評価

○分類A： 「(1) 市政評価」と同じ対象者

○分類B： 市内在住で18歳以上40歳未満の方の中から無作為（性別、年齢、地域については考慮）に抽出した市民800人。

5 回収数・回収率

調査票			送付数	回収数				回収率
市政評価 個別事業評価（分類A）			1,000 人	555 人				55.5%
個別事業評価（分類B）			800 人	291 人				36.4%
内 訳	①郵送または インターネット 回答	400 人		176 人				44.0%
				内 訳	回答方法	回収数	割合	
					郵送	102 人	58.0%	
					ネット	74 人	42.0%	
	②インターネット 回答	400 人	115 人				28.8%	
合計			1,800 人	846 人				47.0%

6 市政評価 調査結果の概要

(1) 満足度及び重要度について

〈満足の度合い〉

⇒満足度の上位項目は「保健・医療」、「自然・環境衛生」、同順で「子育て」「安全・安心体制」「上・下水道」の順となっており、下位項目は「空き家対策」「雇用・就労」「商工業」の順となっている。

⇒昨年度と比較すると、全体的に満足度が減少しており、増減の変化が大きかったのは、満足度 3.46 で3位の「安全・安心体制」(前回より 0.17 ポイント減)、満足度 3.42 で6位の「スポーツ」(前回より 0.15 ポイント減)、満足度 3.35 で8位の「花火産業構想」(前回より 0.15 ポイント減)、満足度 3.20 で18位の「芸術・文化」(前回より 0.15 減)となっている。

⇒昨年度から増加している項目は、満足度 3.26 で13位の「公共交通」(前回より 0.07 ポイント増)のみとなっている。

順位		項 目	満足度 ※			
R3	R2			R3	R2	増減 (R3-R2)
1	1	【保健・医療】	←	3.61	3.64	▲ 0.03
2	3	【自然・環境衛生】	↙	3.51	3.59	▲ 0.08
3	5	【子育て】	←	3.46	3.51	▲ 0.05
3	2	【安全・安心体制】	↓	3.46	3.63	▲ 0.17
3	5	【上・下水道】	←	3.46	3.51	▲ 0.05
6	4	【スポーツ】	↓	3.42	3.57	▲ 0.15
7	8	【地域情報化】	↙	3.38	3.44	▲ 0.06
8	7	【花火産業構想】	↓	3.35	3.50	▲ 0.15
9	9	【学校教育】	↙	3.34	3.41	▲ 0.07
10	10	【社会保障】	↙	3.32	3.38	▲ 0.06
11	11	【社会福祉】	↙	3.30	3.36	▲ 0.06
12	12	【生涯学習】	↙	3.27	3.35	▲ 0.08
13	22	【公共交通】	↗	3.26	3.19	0.07
14	17	【道路・河川】	←	3.25	3.25	0.00
15	14	【地域間・国際交流】	↙	3.24	3.31	▲ 0.07
16	15	【住環境】	↙	3.23	3.30	▲ 0.07
17	19	【市民協働】	←	3.21	3.23	▲ 0.02
18	12	【芸術・文化】	↓	3.20	3.35	▲ 0.15
18	18	【地域活性化】	←	3.20	3.24	▲ 0.04
20	16	【観光】	↙	3.18	3.29	▲ 0.11
21	21	【農林水産業】	←	3.16	3.21	▲ 0.05
21	20	【男女共同参画】	↙	3.16	3.22	▲ 0.06
23	24	【移住・定住】	←	3.10	3.11	▲ 0.01
24	23	【行財政運営】	↙	3.05	3.13	▲ 0.08
25	26	【出会い・結婚】	←	2.98	3.00	▲ 0.02
26	25	【市街地】	↙	2.92	3.01	▲ 0.09
27	28	【商工業】	←	2.90	2.91	▲ 0.01
28	27	【雇用・就労】	↙	2.84	2.93	▲ 0.09
29	29	【空き家対策】	↙	2.82	2.88	▲ 0.06

※矢印の説明

↑	上昇 (前年比+0.15以上)
↗	やや上昇 (前年比+0.05以上+0.15未満)
←	横ばい (前年比-0.05より大きく+0.05未満)
↙	やや下降 (前年比-0.05以下-0.15未満)
↓	下降 (前年比-0.15以下)

〈重要の度合い〉

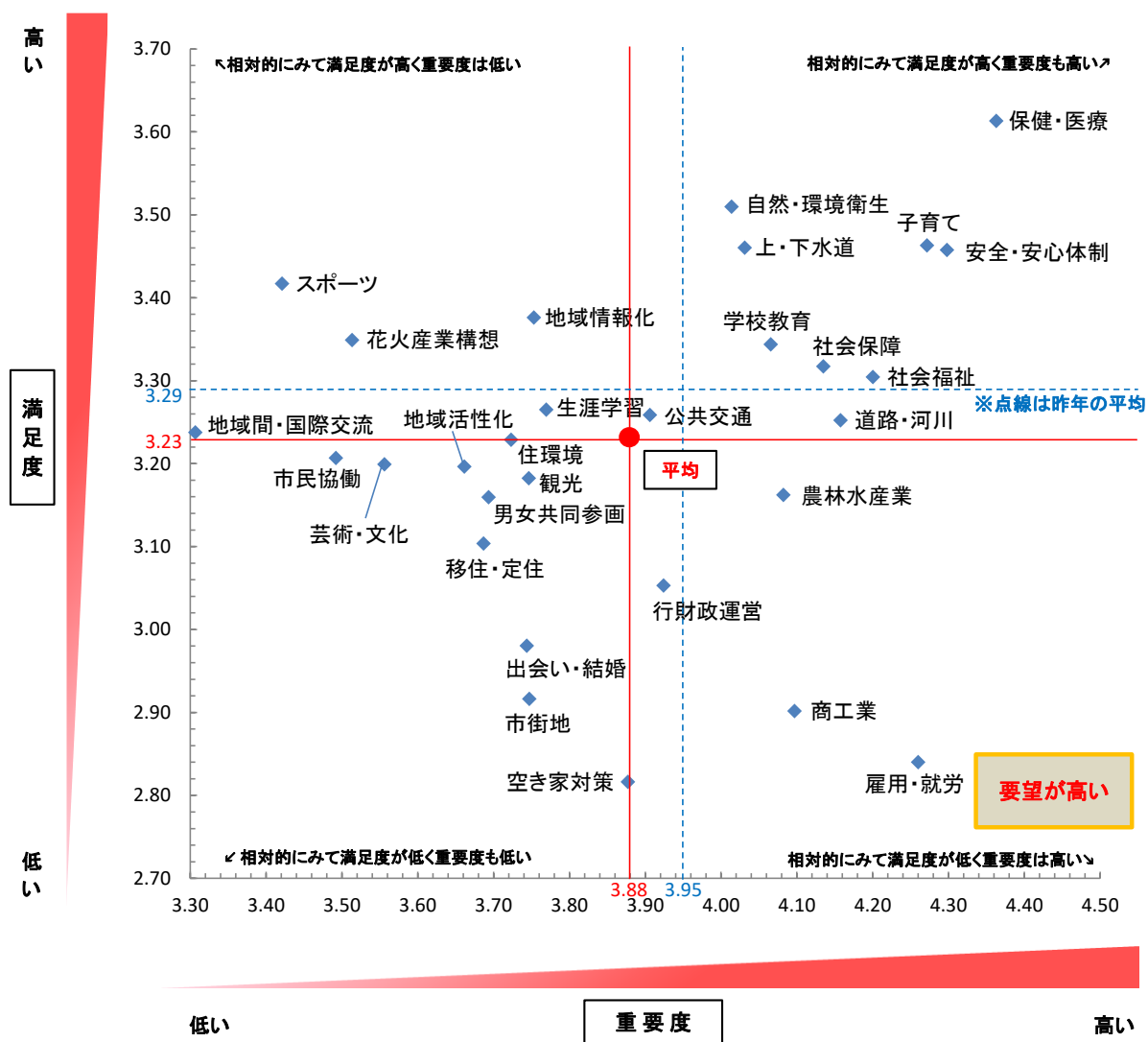
- ⇒重要度の上位項目は、「保健・医療」「安全・安心体制」「子育て」の順となっており、
下位項目は「地域間・国際交流」「スポーツ」「市民協働」の順となっている。
- ⇒昨年度と比較すると、全体的に重要度が減少しており、増減の変化が大きかったのは、重要度 3.91 で 14 位の「公共交通」（前回より 0.16 ポイント減）、重要度 3.66 で 24 位の「地域活性化」（前回より 0.16 ポイント減）となっている。
- ⇒昨年度から増加している項目は、重要度 3.69 で 22 位の「男女共同参画」（前回より 0.03 ポイント増）のみとなっている。

順位		項 目	重要度 ※			
R3	R2			R3	R2	増減
						(R3-R2)
1	1	【保健・医療】	←	4.36	4.40	▲ 0.04
2	3	【安全・安心体制】	←	4.30	4.32	▲ 0.02
3	2	【子育て】	↙	4.27	4.38	▲ 0.11
4	4	【雇用・就労】	←	4.26	4.29	▲ 0.03
5	5	【社会福祉】	←	4.20	4.25	▲ 0.05
6	7	【道路・河川】	↙	4.16	4.22	▲ 0.06
7	6	【社会保障】	↙	4.14	4.23	▲ 0.09
8	9	【商工業】	↙	4.10	4.17	▲ 0.07
9	8	【農林水産業】	↙	4.08	4.20	▲ 0.12
10	11	【学校教育】	←	4.07	4.12	▲ 0.05
11	10	【上・下水道】	↙	4.03	4.14	▲ 0.11
12	11	【自然・環境衛生】	↙	4.01	4.12	▲ 0.11
13	14	【行財政運営】	↙	3.92	3.97	▲ 0.05
14	13	【公共交通】	↓	3.91	4.07	▲ 0.16
15	15	【空き家対策】	↙	3.88	3.94	▲ 0.06
16	20	【生涯学習】	←	3.77	3.77	0.00
17	22	【観光】	←	3.75	3.75	0.00
17	16	【地域情報化】	↙	3.75	3.82	▲ 0.07
17	19	【市街地】	←	3.75	3.80	▲ 0.05
20	16	【出会い・結婚】	↙	3.74	3.82	▲ 0.08
21	20	【住環境】	←	3.72	3.77	▲ 0.05
22	23	【移住・定住】	↙	3.69	3.74	▲ 0.05
22	24	【男女共同参画】	←	3.69	3.66	0.03
24	16	【地域活性化】	↓	3.66	3.82	▲ 0.16
25	27	【芸術・文化】	←	3.56	3.59	▲ 0.03
26	25	【花火産業構想】	↙	3.51	3.64	▲ 0.13
27	26	【市民協働】	↙	3.49	3.60	▲ 0.11
28	28	【スポーツ】	↙	3.42	3.52	▲ 0.10
29	29	【地域間・国際交流】	↙	3.31	3.42	▲ 0.11

※矢印の説明	
↑	上昇 (前年比+0.15以上)
↗	やや上昇 (前年比+0.05以上+0.15未満)
←	横ばい (前年比-0.05より大きく+0.05未満)
↘	やや下降 (前年比-0.05以下-0.15未満)
↓	下降 (前年比-0.15以下)

〈要望が高い施策〉

⇒ 相対的に見て、要望度が高い施策（重要度は高いが満足度は低い）は「雇用・就労」「商工業」となっている。



(2) 今後、さらに推進すべき取り組みについて

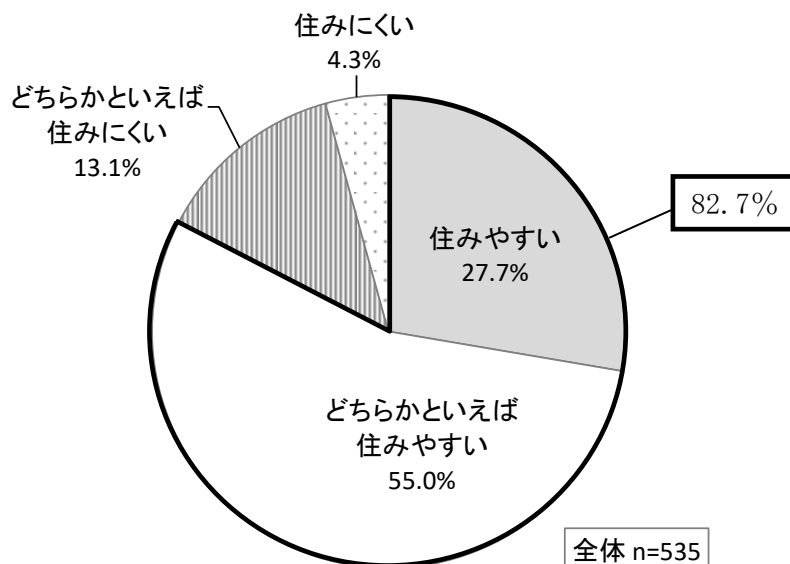
今後さらに推進すべき取り組みとして、各分野で回答数が多い上位3項目は次のとおり。

分 野	順位	取り組み内容	回答数
産業分野	1	農業の担い手確保、育成	326
	2	雇用・就労への支援	320
	3	若者の起業支援	269
出会い・結婚・子育て分野	1	子育てに関わる経済的負担の軽減	315
	2	妊娠、出産、育児を応援する環境づくり	305
	3	子育て支援サービスの充実	276
健康福祉・スポーツ分野	1	地域医療体制の整備	270
	2	介護サービス基盤等の整備	260
	3	からだの健康づくりの推進	224
環境・安全分野	1	除排雪体制の充実	354
	2	空き家の管理と利活用の推進	261
	3	消融雪施設の整備	225
都市基盤分野	1	生活道路の整備	300
	2	安全で安定した水道水の供給	196
	3	道路・橋りょうの維持管理	194
教育・交流分野	1	生きる力を育む学校教育の推進	319
	2	学校と地域の交流・連携	214
	3	学校施設の整備	194
地域活性化・市民との協働・行政運営分野	1	若者が活躍できる環境づくり	308
	2	小規模集落・高齢化集落への支援	235
	3	移住・定住への支援	186

(3) あなたが思う大仙市について

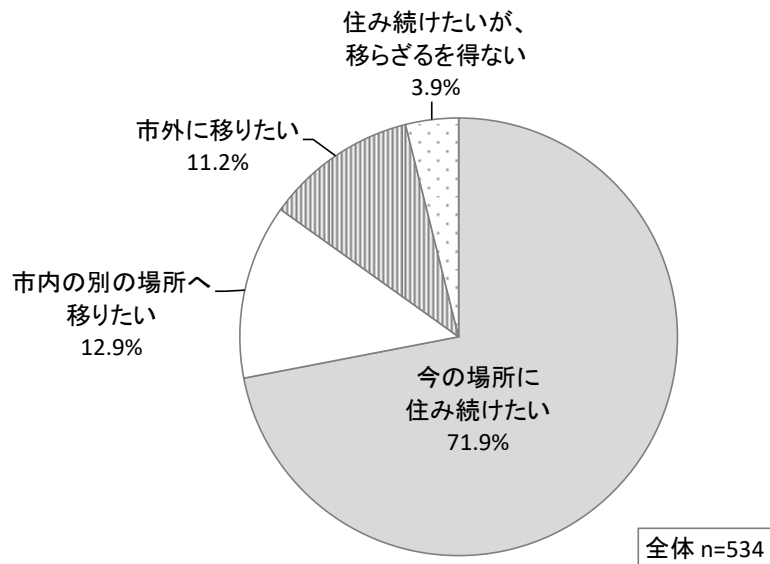
○大仙市は住みやすいか

⇒「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の割合を合わせると、82.7%で、8割を超えている。



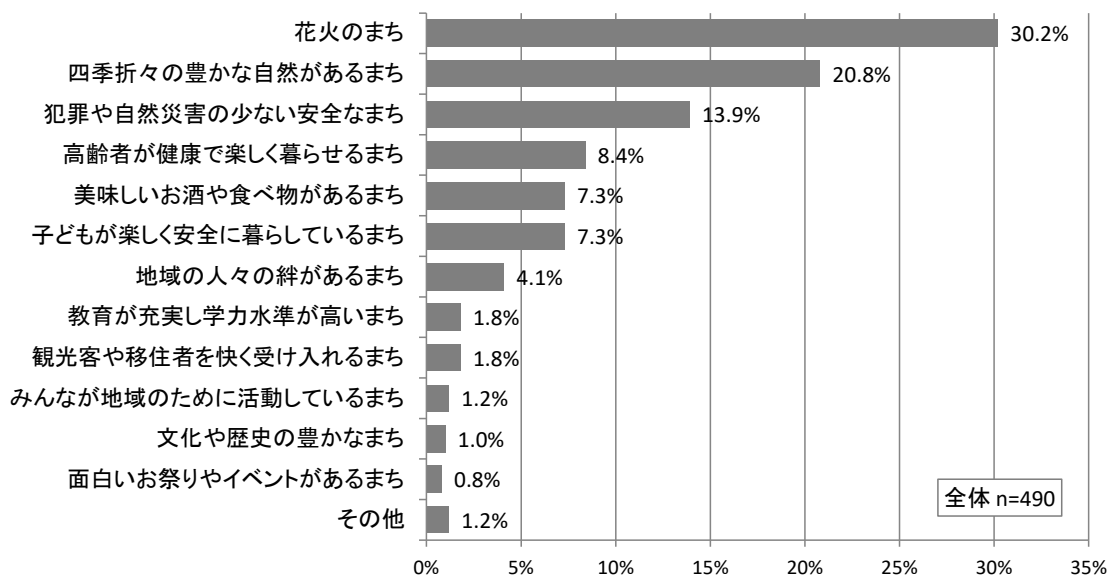
○大仙市に住み続けたいか

⇒「今の場所に住み続けたい」の割合は 71.9%で、7 割を超えている。



○10年後、大仙市を市外の知人に紹介する場合、どのようなまちとして紹介したいか（単一回答）

⇒「花火のまち」の割合が 30.2%で突出しており、次いで「四季折々の豊かな自然があるまち」が 20.8%、「犯罪や自然災害の少ない安全なまち」が 13.9%となっている。



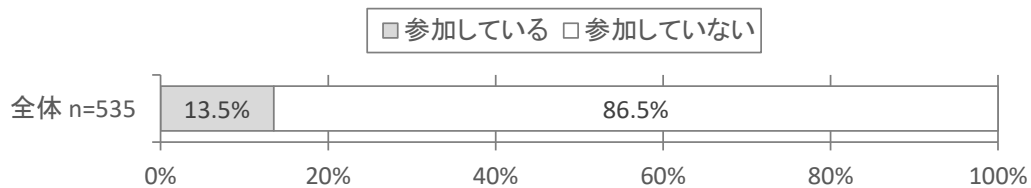
7 個別事業評価 調査結果の概要

(1) 健幸まちづくりプロジェクトについて

調査目的：健幸まちづくりプロジェクトの参加・活動状況等を調査し、今後の参加拡大と継続に資する取組を推進していくための参考とする。

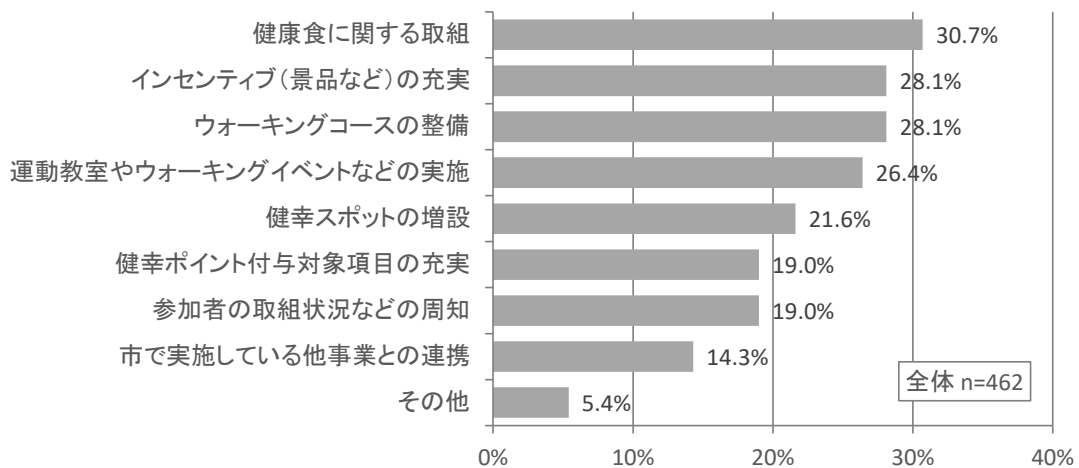
○健幸まちづくりプロジェクトに参加していますか。

⇒「参加している」の割合は13.5%となっており、「参加していない」が8割を超えている。



○どのような取組があれば参加したいと思いますか。また、継続して参加したいと思いますか。（3つまで）

⇒「健康食に関する取組」の割合が30.7%で最も高く、次いで「インセンティブ（景品など）の充実」「ウォーキングコースの整備」が同率で28.1%となっている。

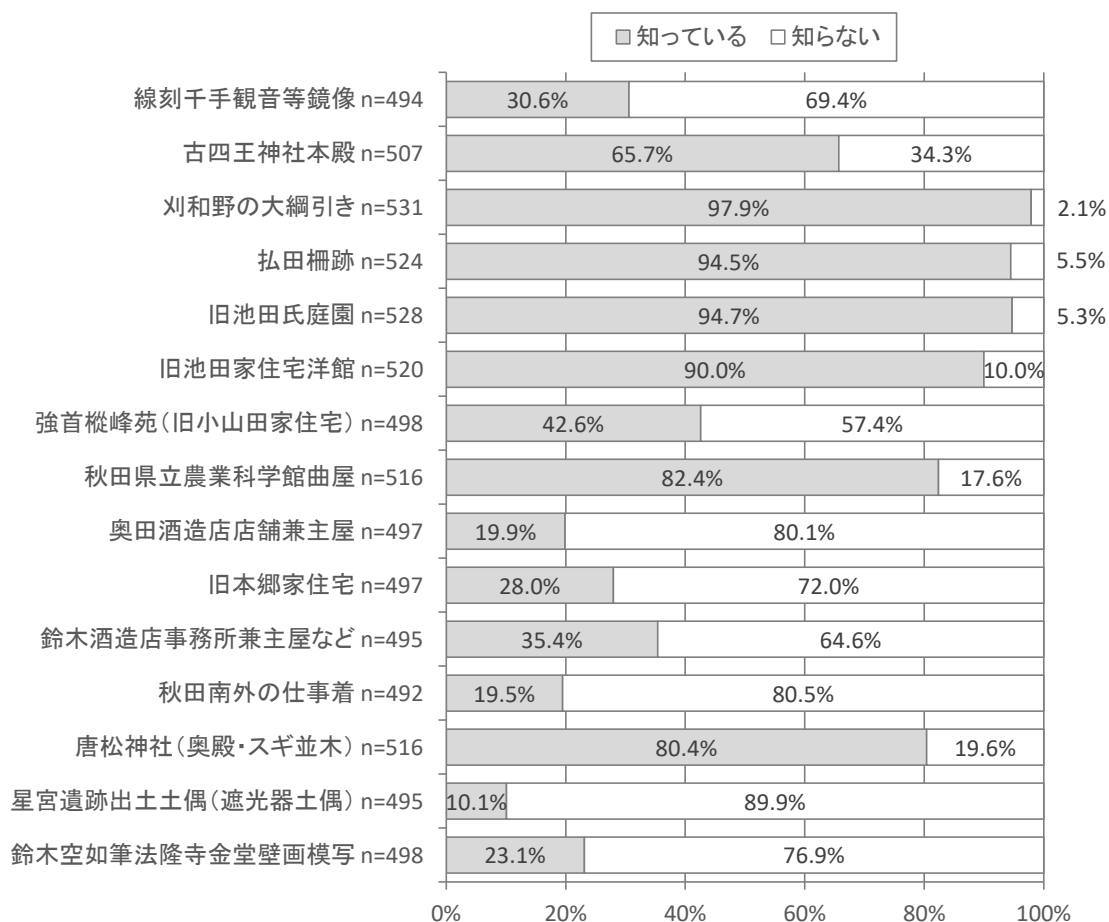


(2) 市の文化財について

調査目的：市の文化財への関心等について調査し、今後の文化財の維持や保存、さらなる活用に向けた取組の参考とする。

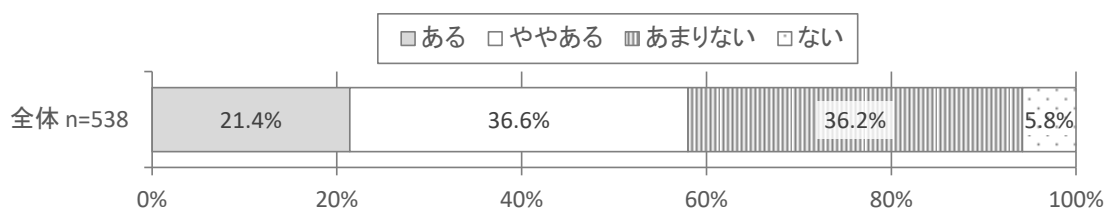
○次の指定文化財を知っていますか。

- ⇒全体的に「知っている」と「知らない」の差が大きく、文化財別の認知度も対照的となっている。
- ⇒文化財別で見ると、「知っている」の割合は「刈和野の大綱引き」が97.9%で最も高く、次いで「旧池田氏庭園」「払田柵跡」「旧池田家住宅洋館」と、いずれも9割以上を占めている。



○文化財に関心がありますか。

- ⇒「ある」と「ややある」の割合を合わせると58.0%となっており、6割近くを占めている。

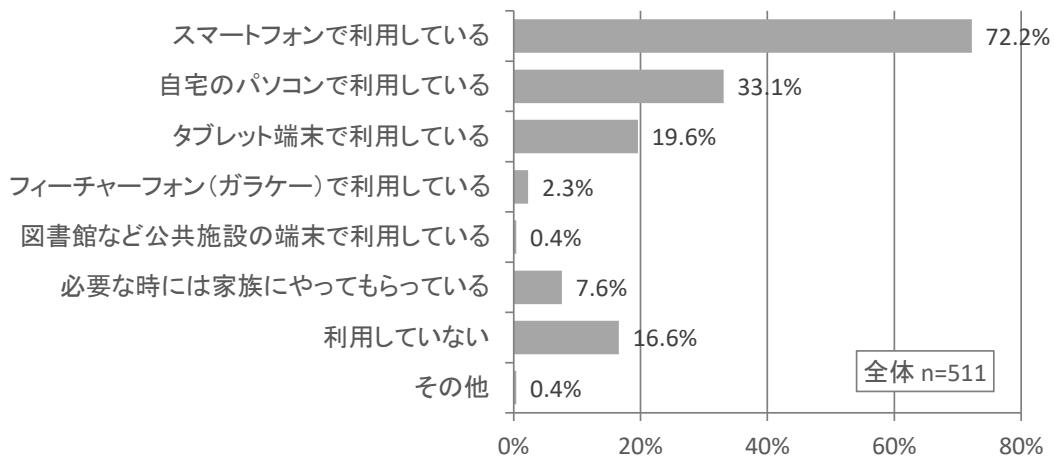


(3) 市民のデジタル活用について

調査目的：インターネットの活用状況や今後の利用の意向等について調査し、市のデジタル化を推進していく上での参考とする。

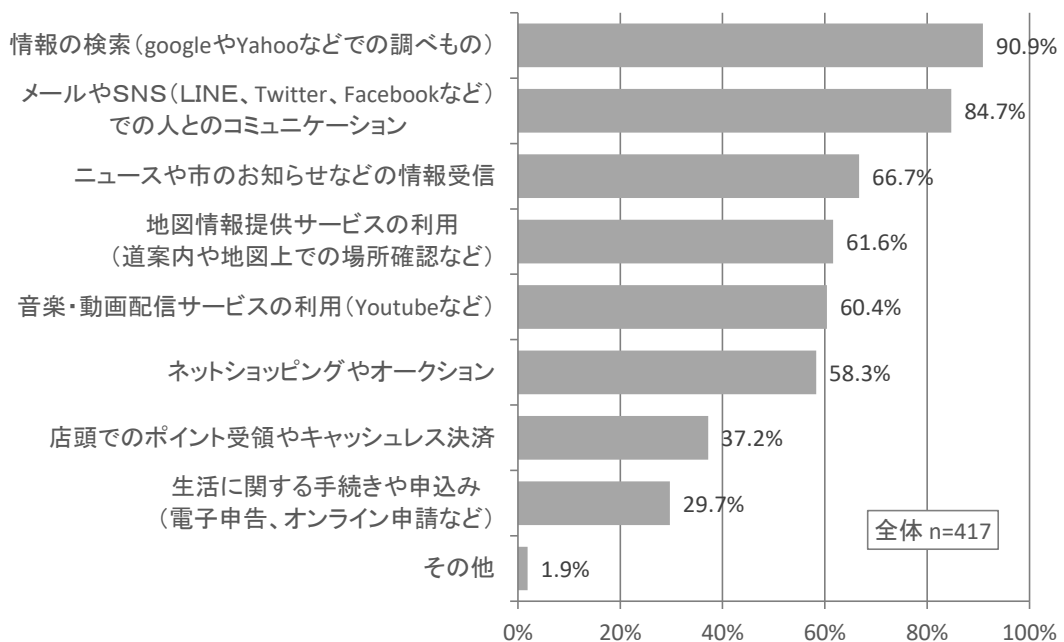
○仕事以外の生活の中でインターネットを利用していますか。

- ⇒「スマートフォンで利用している」の割合が72.2%で突出しており、7割を超えている。
- ⇒「必要な時には家族にやってもらっている」は7.6%、「利用していない」は16.6%となっている。



「利用している」または「必要な時には家族にやってもらっている」と回答した方 ○どのような目的で利用していますか。

- ⇒「情報の検索 (google や Yahoo などでの調べもの)」の割合が90.9%で最も高く、次いで「メールやSNS (LINE、Twitter、Facebook など) での人とのコミュニケーション」が84.7%となっており、上位2項目の回答が突出している。

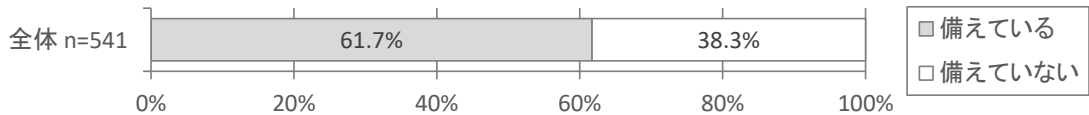


(4) 家庭での災害への備えについて

調査目的：各家庭で行っている防災対策や備蓄の状況等について調査し、防災意識の向上を図っていくための参考とする。

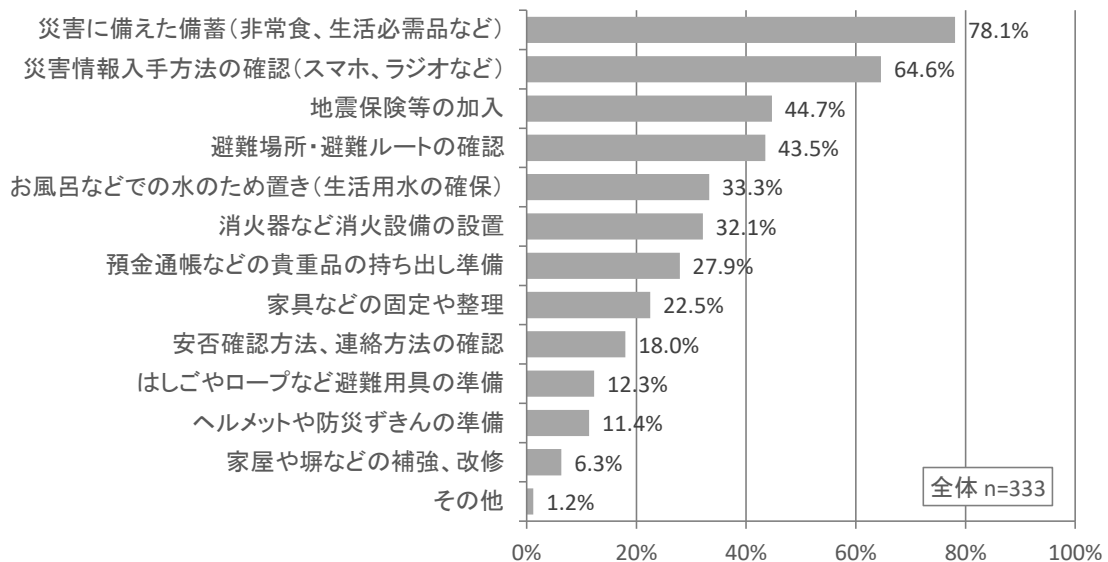
○災害に対して各家庭で何か備えていることはありますか。

⇒「備えている」の割合が 61.7%となっており、6 割を超えている。



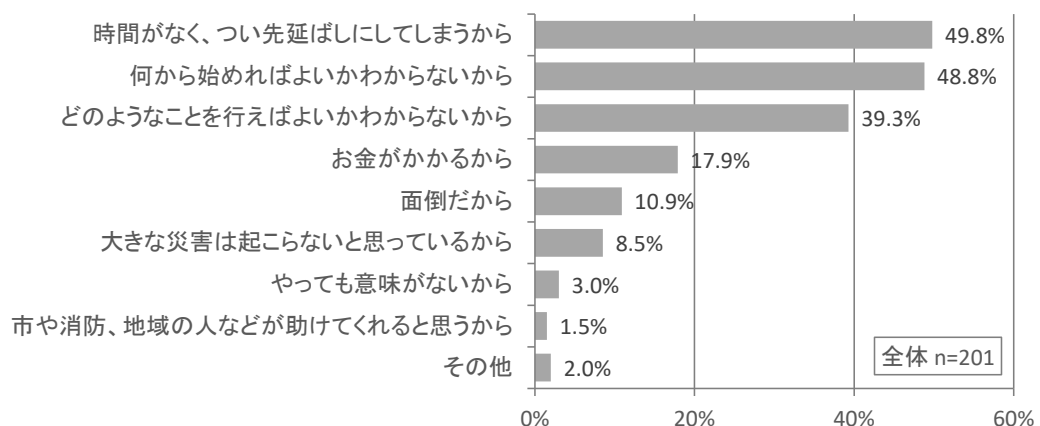
「備えている」と回答した方 ○具体的にどのような備えをしていますか。

⇒「災害に備えた備蓄（非常食、生活必需品など）」の割合が 78.1%で最も高く、次いで「災害情報入手方法の確認（スマホ、ラジオなど）」が 64.6%となっており、上位 2 項目の回答が突出している。



「備えていない」と回答した方 ○災害への備えをしていない理由は何ですか。

⇒「時間がなく、つい先延ばしになってしまうから」の割合が 49.8%で最も高く、次いで「何から始めればよいかわからないから」が 48.8%、「どのようなことを行えばよいかわからないから」が 39.3%となっており、上位 3 項目の回答が突出している。

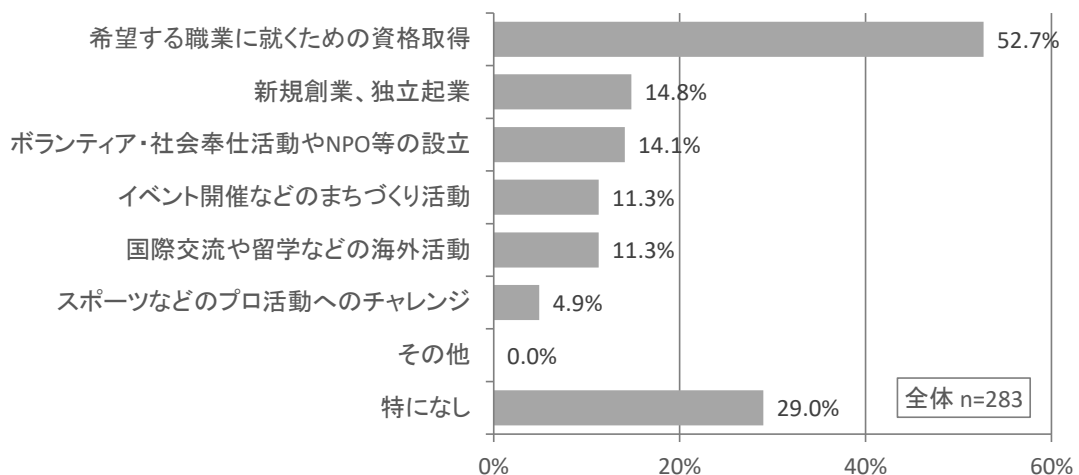


(5) 若い世代のチャレンジについて

調査目的：夢や希望の実現に向けてチャレンジする若い世代の皆さんを応援する具体的な方法を検討するための参考とする。

○今後チャレンジしてみたい、または新たに始めてみたいと思うことはどのようなことですか。

⇒「希望する職業に就くための資格取得」の割合が 52.7%で突出し、次いで「特になし」が 29.0%となっており、「新規創業、独立起業」が 14.8%、「ボランティア・社会奉仕活動や NPO 等の設立」が 14.1%と続いている。



○若い世代のチャレンジを応援するための支援や取組としてどのようなものが必要だと思いますか。（3つまで）

⇒「地域の理解促進や資金提供など若い世代がチャレンジしやすい環境の整備」の割合が 63.2%で最も高く、次いで「若い世代のチャレンジを支援する新しい補助制度等の創設」が 51.4%となっており、上位 2 項目の回答が突出している。

